

阪神タイガース優勝の経済効果を検証する

要 旨

財団法人 関西社会経済研究所
マクロ経済分析プロジェクト主査 高 林 喜久生
(関西学院大学経済学部教授)

2003年の関西経済は、阪神タイガースの優勝抜きに語ることはできない。18年ぶりにリーグ優勝を果たしたタイガースの盛り上がりは、異常なまでに熱気に満ちたものであった。そこで、タイガースの優勝が関西経済に与えた影響について、現在、利用可能なデータとヒアリング結果をもとに検証してみた。

阪神グループ企業ではかつてないほどの大きな効果があった。

阪神電鉄 ... 売上高、利益とも過去最高を更新
阪神百貨店... 売上高9月 前年比+52.4%
タイガースショップ売上高 上半期 前年比3.7倍

大阪地区ではタイガース効果は消費を中心に景気を押し上げた。

百貨店販売額(「商業販売統計」) ...
9月 前年比+2.8%(18ヵ月ぶりに前年比プラス) 10月 前年比 +2.3%
スーパーマーケット販売額(同) ... 10月は前年比+1.2%

京都地区や神戸地区では消費は低迷状態にあるが、関西地区全体として見るとタイガース効果は、前年比のマイナス幅を小さくするという形で景気の底上げに寄与した。

勤労者世帯の名目消費支出(「家計調査」) ... 前年比のマイナス幅は縮小傾向
家電販売額(日本電気大型店協会販売実績) ... 3ヵ月連続で前年比プラス

経済効果の試算前提についてもプラス面、マイナス面を総合すると大きな変更はない。
(付表参照)

上方修正すべき点...観客動員数(330万人)など
下方修正すべき点...阪神百貨店優勝セール売上高
(ただしセール日数・入店制限などの影響による)

85年優勝時の経験から判断すると異時点間代替(将来の消費の先取り)の程度は大きくない。

景気は「気」とも言われるが、景気マインドの点でタイガース効果は大きな影響を与えた。

関西の景気の現状判断DI(「景気ウォッチャー調査」)
... 10月 55.1(3ヵ月連続で横ばいを示す50を上回っている)

来年度もタイガースの快進撃が続ければ大阪や関西の経済にとって明るい材料となる。

以 上

(付表) 関西の直接需要の構成と考え方

		U F J 総合研究所試算		本プロジェクトにおける変更点	
1 観客 動員	ホームゲーム (甲子園など)	今期300万人の動員を予想。過去3年間の平均動員数 239万人。 今期増分61万人		今期の動員数330万人 今期増分91万人	
		チケット収入 (@2,400円) 球場内の消費 (@500円×50%) 交通費(鉄道) (@1,000円×50%) 小計	14.64 億円 1.53 億円 3.05 億円 19.22 億円	チケット収入 球場内の消費 交通費(鉄道) 小計	21.84 億円 2.28 億円 4.55 億円 28.67 億円
2	優勝セール	優勝セールの日数・規模が定かではないため、85年並 の実績を想定。 阪神百貨店(1985年実績) その他百貨店・商店街 小計	55.0 億円 3.4 億円 58.4 億円	優勝セール 阪神百貨店 その他百貨店・商店街 小計	50.0 億円 3.4 億円 53.4 億円
3	飲食等の関連支出	関西の阪神ファン 723万人を想定。 飲食を中心に年間1万円/人を追加支出。 (参考:85勝の場合、118円/勝の規模)	723 億円	同左	723 億円
4	マスコミ関連	スポーツ新聞の発行部数 580万部/日。関西の阪神ファン (10%)の1.5割が1勝につき購入。 580万部×21.0%(全国の阪神ファン比率)× 48.2%(723万人/1,500万人)×15.0%×@130円×85勝	9.73 億円	同左	9.73 億円
5	タイガース関連商品	今期の新規購入(@1,667円)を想定	120.5 億円	同左	120.5 億円
直接需要計(注)			930.9 億円		935.3 億円

(備考) 1. その他百貨店・商店街の優勝セールの規模については、1985年の実績を使用している。

2. 四捨五入により小計、合計が一致しない場合がある。